

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 188人

② 数学 188人

5 留意事項

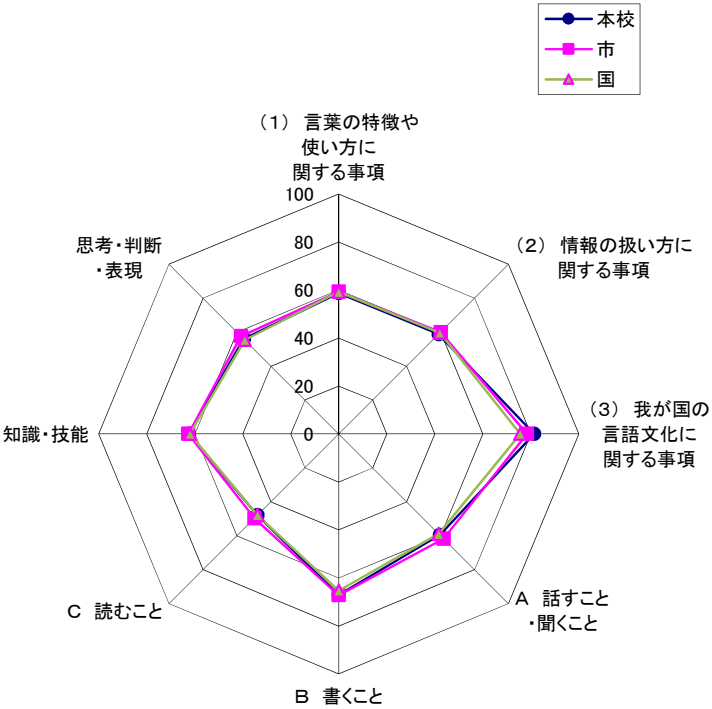
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立〇〇〇中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	58.7	59.3	59.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	58.8	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.4	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	59.6	61.8	58.8
	B 書くこと	67.0	67.2	65.3
	C 読むこと	47.9	49.7	47.9
観点	知識・技能	62.5	62.7	62.0
	思考・判断・表現	56.0	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

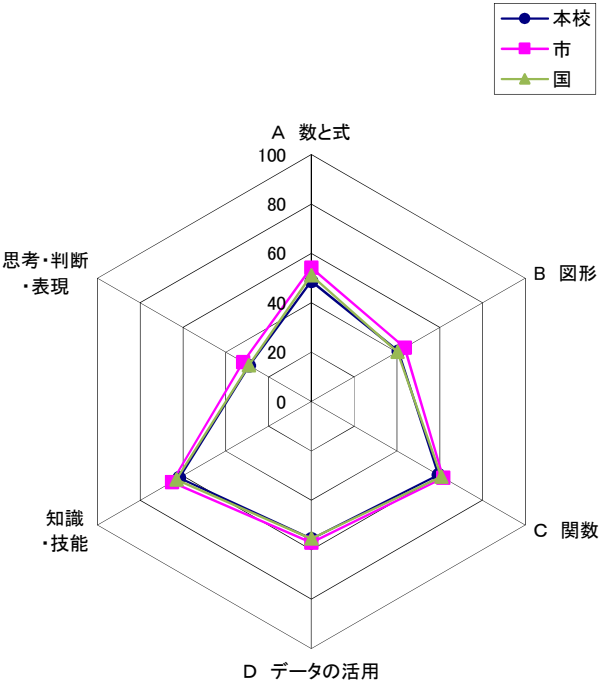
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○漢字の書きの問題において、県の平均を1.5%上回った。 ●宇都宮市の平均を0.6%下回った。	漢字の問いに対して、語句の意味を答える問題は、正答率が県平均や全国平均を上回っているものの差が小さいため、読書の機会を増やしたり授業で新しく学んだ言葉に対して補足説明をするなどして、語彙力の向上を目指していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	○本文中の情報と情報との関係を説明したのとして適切なものを選択する問題において、県の平均を1.3%上回った。 ●宇都宮市の平均を1.2%下回った。	情報の扱いに関する問題は、具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる内容であった。正しい情報どうしの関係性が理解できている。現在インターネットなど様々な場面で、情報の正しい取捨選択が必要な世の中になっている。調べ学習などで、正しい情報の扱いをできるようにする活動を取り入れていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○宇都宮市の平均を3.0%上回った。	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したのとして適切なものを選択する問題が出題され、行書の特徴についての理解度が高いことがわかった。この問題に限らず、書写などの教材にて引き続き行書や書写全般の知識を定着させていく。
A 話すこと・聞くこと	○話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く問題において県の平均を4.2%上回った。 ●宇都宮市の平均を2.2%下回った。	聞き取りテストを行い、話している側の意図や要点を聞き取る力を養いたい。聞き取った内容をもとに、自分の意見を書くことができるような課題にも取り組むようにする。
B 書くこと	○表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題において、県の平均を0.9%上回った。 ●宇都宮市の平均を0.2%下回った。	自分の意見とともに、根拠を明確にして書く能力や、必要な情報を取り出し、正しく表現する能力を、意見文を書くことや批評文を書く分野でさらに向上させる。また、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかの問題が出題されていた。意見文を書く学習や短文で自分の意見を明確にする活動を、さらに取り入れていく。
C 読むこと	○短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える問題において、県の平均を1.6%上回った。 ●宇都宮市の平均を1.6%下回った。	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率が低かった。文章の要点を捉えられるような活動や、その関係を理解する活動を取り入れていく。

宇都宮市立〇〇〇中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	48.7	54.2	51.1
	B 図形	40.6	43.6	40.3
	C 関数	59.4	61.7	60.7
	D データの活用	55.6	57.1	55.5
観点	知識・技能	61.8	65.2	63.1
	思考・判断・表現	29.1	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる問題の正答率が高い。 ●連続する二つの偶数を文字を用いた式で表す問題と等式を目的に応じて変形する問題の正答率が、国・県よりも下回っている。	・単純な計算技能は身につけている生徒が多く、計算問題などへの解答率が高い。複雑な式や数の性質の証明では正答率が低く、無回答率も国・県より高い傾向がある。計算プリントやワークなどを使って、引き続き計算問題をなるべく多く解くとともに、数の種類については、1年時よりしっかりと定着させたい。
B 図形	○回転移動について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が国・県よりも大幅に上回っている。 ●図形の証明問題で、正答率が低い。	・回転移動について理解しているかどうかをみる問題では無回答率が0%であり、想像しやすい問題への抵抗がない。図形の証明問題では、論理的な思考はできていても、書けないという傾向があることから、証明の書き方を身につけさせていく。
C 関数	○一次関数の式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる問題では、正答率が国・県よりやや高い。 ●全体的に正答率は国・県とほぼ同程度だが、思考・判断・表現の問題では正答率が下がり、無回答率も多い傾向にある。	・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る力は身に付いているが、そこから新たな問題を解決するための方法を説明することに苦手意識がある。表やグラフをよく分析させ、どんな状況を表しているのかを言語化させる活動を、普段の授業から意識させたい。
D データの活用	○複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題では、正答率が国・県を大幅に上回っている。 ●すべての問題で無回答率が国・県を大幅に上回っている。	・データの活用は全体的に正答率が低く、無回答率も高い。代表値や箱ひげ図の用語などについて忘れていた生徒が多いため、復習を丁寧に行い、家庭学習の充実にもつなげていきたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

生活や考えについて ○「友達関係に満足していますか」という問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答した生徒が94. 1%で全国の平均より9. 0%上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に肯定的な回答をした生徒が96. 8%で、多くの生徒が人の役に立ちたいと思っていると言える。 ○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒が92. 4%で全国の平均より2. 0%上回っている。また、「友達関係に満足していますか」という問いに対して、肯定的な回答の生徒が94. 1%おり、全国の平均を4. 0%上回っており、友達関係もおおむね良好であると言える。 ●「将来の夢や目標をもっていますか」という問いに対して、「当てはまる」と回答した生徒が本校は35. 5%、栃木県で40. 2%、全国で36. 1%であったことから、本校は夢や目標をもっている生徒がやや少ないと言える。学級活動や総合的な学習の時間などを通して、将来の夢を見つけるきっかけ作りなどをさせていきたい。
学習について ○「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は、85. 0%いて全国の平均を5. 7ポイント上回っている。また、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対しても、肯定的回答が90. 3%にのぼるなど、学年が上がっても自分の考えを深めたり、広げたりする活動に対して、多くの生徒が継続的に、積極的に取り組んでいることが分かる。 ○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は77. 4%いて全国の平均を5. 2ポイント上回っている。また、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」という質問に対しても肯定的回答が81. 2%あり、一つの教科内だけで学習を完結してしまうのではなく、一つの学びを他教科、他分野に広げようと教科横断的な学習に取り組める生徒が多いことが分かる。 ●ICT機器の活用に関する質問の肯定的回答の割合は、すべての項目で県、国の平均を下回っている。ICTの活用に関してICT支援員の手も借りながら、教科を問わず進めていく必要がある。

宇都宮市立横川中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「分かる授業」の展開及び家庭学習の確立による基礎・基本の定着と「主体的・対話的で深い学びの実現」による思考力、判断力、表現力、学びに向かう力の育成。	・基礎的・基本的事項の定着を図る「分かる授業」の展開。 ・自主学习ノート、AI型学習ドリルの活用による家庭学習の定着と家庭学習内容の充実に向けた指導。	○「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して肯定的回答が85. 0%で、全国の平均より6. 9%上回った。自ら学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いと言える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「学校の授業時間以外に、普段一日にどれくらタブレットを使用しているか。」(遊びなどの目的に使うのは除く)	・学びポケットの中のMEXCBT連携アプリを使用している学習課題の配布。	MEXCBT連携アプリを通して、各教科の補足的、発展的な学習課題を生徒に提示し、AIドリルを通した単元ごとの確認と併せて、タブレットの使用時間を増やしていく。